

令和 7 年度 (令和 6 年度事業分)

真室川町教育委員会
事務・事業点検評価報告

令和 7 年 8 月

真室川町教育委員会

真室川町教育委員会外部評価システムについて

1. はじめに

真室川町教育委員会では、「生きがいを感じ 幸せを感じるまち 真室川」を将来像とし、令和 3 年度からスタートした第 6 次真室川町総合計画にもとづき、「みんなで育む学びのまち」を基本目標に掲げ、「子育て支援の充実」「学校教育の充実」、「多様な学びの機会の充実」など、具体的な施策の実現に努めてきました。

また、令和元年度に 5 か年間計画として策定した第一次真室川町教育振興計画が終了し、新たに令和 6 年度から策定した「第二次真室川町教育振興計画」の 1 年次として、掲げた目標の実現に向けて取り組んできました。

このような中、すべての教育委員会はその権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに、その公表が義務付けられています。

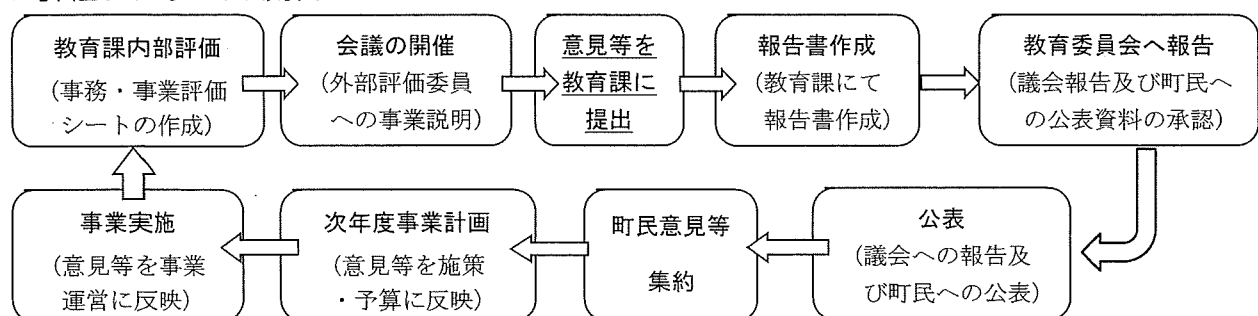
このことから当教育委員会では、教育行政サービスの更なる質の向上や効率化を推進し、町総合計画に掲げた基本目標の実現を図るために、平成 23 年度から外部評価委員を委嘱し、各事務・事業の点検及び評価を行う、「真室川町教育委員会外部評価システム」を導入しています。

2. 外部評価システムの流れ

評価は各事務・事業について、担当係が評価シートを作成することから始まり、教育課内部による評価を行います。この内部評価について、学識経験者等で構成する「真室川町教育委員会外部評価委員」（以下「外部評価委員」という。）から、教育課内部評価の客観性の検証と改善等に関する意見をいただきます。

教育委員会では、外部評価委員の意見をもとに各事務・事業の最終方針を決定し、議会への報告及び町民への公表を行います。また、公表により町民の皆様からいただく意見・要望等も参考にしながら、今後の事業計画・運営に反映させるとともに、各事務・事業の改善に努め、町民の目線に立った教育行政の運営に努めます。

★評価システムの流れ



3. 事務・事業評価シートの記載内容について

(1) 評価の対象とする事業

評価の対象とする事業は、令和 6 年度に策定した第二次真室川町教育振興計画に基づいた施策として掲げる事務・事業とします。

(2) 内部評価におけるシート作成者と記入方法

内部評価による評価シートは、各事業担当係が作成し、主な事業内容と成果・課題、教育委員会の評価を記入します。

「目標指標一覧」には、計画策定時（原則、令和 5 年度）の数値に、参考として山形

県の数値を（ ）書きで付記しています。また、計画終了時（令和10年度）の目標値と、点検・評価段階の現況値（令和6年度）を記載しています。

外部評価委員より、内部評価に係る事業内容や事業の評価について点検・検討を行い、外部評価に係る評価及び意見を記入します。

4. 外部評価委員及び委員会の開催

No.	氏名	役 職 等（令和7年4月1日現在）	備 考
1	浅 沼 幸 治	神室少年自然の家 所長 前真室川町立真室川北部小学校 校長	
2	田 中 里 美	人権擁護委員 前まちなか図書館構想検討委員会 委員	
3	新 田 美 穂	保護者代表	

令和7年8月4日(月)に外部評価委員会を開催し、内部評価に係る目標に対する進捗状況や事業効果などについて点検・評価するとともに、外部評価及び評価に係る意見をいただきました。（資料は事前に配付し、効率的な会議運営に努めました。）

今回の事業評価を町民に公表し意見集約することで、教育委員会事務・事業を町民に理解していただき、教育行政への町民参加を推進する機会と位置づけ、PDCAサイクルを確立して、より効果的な教育行政の運営が図られるよう努めてまいります。

また、当該評価委員の意見を踏まえ、事務改善をさらに進めながら、計画的かつ重点的な事業実施に努めてまいりたいと思います。

※事務事業評価シートは、別添のとおりです。

令和7年度
事務・事業点検評価シート
(令和6年度事業分)

令和7年8月
真室川町教育委員会

第2次真室川町教育振興計画の目標指標 進捗一覧

目 標 指 標		小6・中3	現況値(R5)(県)		R6	目標	
基本方針 1◆いのちを尊重し、豊かな心を育成する							
1 「いのちの教育」の推進							
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	89.1%	(84.1%)	80.4%	(84.4%)	現状維持	
	中学校	90.7%	(81.9%)	77.2%	(84.4%)	現状維持	
	小学校	95.6%	(91.2%)	97.8%	(92.7%)	現状維持	
	中学校	90.7%	(87.8%)	82.8%	(90.4%)	現状維持	
2 いじめ防止・不登校対策の充実							
学校が楽しい児童生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	91.3%	(85.2%)	93.4%	(83.9%)	現状維持	
	中学校	94.5%	(81.9%)	80.0%	(83.5%)	現状維持	
	小学校	100.0%	-	95.7%	-	100.0%	
	中学校	87.5%	-	100.0%	-	100.0%	
不登校児童生徒の出現率(30日以上、病気を除く) 【生徒指導上の諸課題に関する実態調査】	小学校	0.3%	(1.7%)	1.1%	-	0.3%未満	
	中学校	7.3%	(5.9%)	6.3%	-	3.1%未満	
基本方針 2◆たくましく、健やかな体を育成する							
3 子どもの体力向上に向けた取り組みの充実							
全国体力・運動能力テストで全国平均以上の項目数の割合 【全国体力・運動能力等調査】	小学校	43.8%	(75.%)	50.0%	(75.%)	75.0%	
	中学校	62.5%	(62.5%)	43.8%	(50.%)	45.0%	
4 食育・健康教育の推進							
朝食を毎日食べている児童生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	97.9%	(95.3%)	95.7%	(95.%)	100.0%	
	中学校	88.9%	(93.%)	91.4%	(93.8%)	100.0%	
5 生活リズムの改善とメディアコントロール							
平日に、学習以外でTV・スマートフォン・タブレット・PC／ゲーム機などを利用してメール・動画・SNSを2時間以上している児童生徒の割合【学校保健委員会調査】	小・高学年	39.5%	-	33.6%	-	減少させる	
	中・3学年	47.0%	-	67.0%	-	減少させる	
基本方針 3◆社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する							
6 確かな学力を育む指導(重点施策3)							
国語、算数・数学の内容が「よく分かる」児童・生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	国	89.1%	(86.9%)	87.0%	(86.5%)	現状維持
		数	82.6%	(78.%)	63.1%	(78.3%)	現状維持
	中学校	国	92.5%	(79.9%)	82.9%	(82.%)	現状維持
		数	62.9%	(70.8%)	51.4%	(73.8%)	県を上回る
週1回以上新聞を読んでいる児童生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	10.8%	(14.6%)	15.2%	(12.2%)	県を上回る	
	中学校	14.9%	(11.6%)	5.7%	(10.3%)	現状維持	
読書が好きな児童生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	63.0%	(73.7%)	60.4%	-	県を上回る	
	中学校	92.9%	(65.9%)	71.8%	-	県を上回る	
近隣(町内)の小中学校と授業研究会を行うなど、合同で研修を行っている割合 【全国学習状況調査】	小学校	100.0%	(55.4%)	100.0%	-	現状維持	
	中学校	100.0%	(69.1%)	100.0%	-	現状維持	
授業改善の実践状況の総合評価【授業づくりスタンダードアンケート】	小学校	2.7	-	2.9	-	(ほぼ満足)3以上維持	
	中学校	2.5	-	2.9	-	(ほぼ満足)3以上維持	
授業でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している児童生徒の割合 【全国学習状況調査】	小学校	60.9%	(53.1%)	58.7%	(49.3%)	60.0%以上	
	中学校	26.0%	(53.3%)	42.8%	(55.1%)	県を上回る	
児童生徒に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用している学校の割合【全国学習状況調査】	小学校	100.0%	(87.4%)	100.0%	(87.4%)	現状維持	
	中学校	100.0%	(90.4%)	100.0%	(81.2%)	現状維持	
7 確かな学力を育む環境整備・支援(重点施策2)							
将来の夢や目標をもっている【全国学習状況調査】	小学校	93.4%	(82.3%)	84.8%	(81.8%)	現状維持	
	中学校	75.9%	(69.1%)	65.8%	(68.4%)	現状維持	
英語の勉強が好きな児童生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	71.8%	(71.4%)	69.5%	(71.4%)	現状維持	
	中学校	59.2%	(50.9%)	61.5%	-	60.0%以上	
英語能力に関する外部試験を受験した中学校3年生の割合【英語教育実施状況調査】	中学校	36.8%	(38.%)	43.9%	(33.9%)	県より上回る	
英検3級以上程度の英語力のある中学3年生の割合【英語教育実施状況調査】	中学校	43.9%	(49.2%)	43.9%	(46.6%)	県より上回る	
基本方針 4◆未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する							
8 未来に向けた「ふるさと学習」の推進(重点施策1)							
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合【全国学習状況調査】	小学校	89.1%	(75.6%)	77.1%	-	現状維持	
	中学校	64.8%	(49.%)	48.7%	-	現状維持	
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合 【全国学習状況調査】	小学校	84.8%	(80.9%)	82.6%	(85.4%)	現状維持	
	中学校	74.1%	(70.9%)	74.3%	(80.8%)	現状維持	
自分が住んでいる地域の食べ物に興味を持つことができた児童生徒の割合 【おいしいふるさと給食アンケート】	小学校	90.8%	-	91.7%	-	現状維持	
	中学校	85.5%	-	84.8%	-	現状維持	
食への感謝の気持ちを持つことができた児童生徒の割合 【おいしいふるさと給食アンケート】	小学校	97.1%	-	96.8%	-	現状維持	
	中学校	96.6%	-	97.1%	-	現状維持	
9 「本物体験」によるキャリア教育の推進							
将来の夢や目標をもっている(再掲)【全国学習状況調査】	小学校	93.4%	(82.3%)	84.8%	(81.8%)	現状維持	
	中学校	75.9%	(69.1%)	65.8%	(68.4%)	現状維持	
基本方針 5◆グローバル化・情報化に対応した力を育成する							
10 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進							
英語の勉強が好きな児童生徒の割合(再掲)【全国学習状況調査】	小学校	71.8%	(71.4%)	69.5%	(71.4%)	現状維持	
	中学校	59.2%	(50.9%)	61.5%	-	65.0%以上	
11 教育DXの推進							
授業でPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用している児童生徒の割合(再掲)【全国学習状況調査】	小学校	60.9%	(53.1%)	58.7%	(49.3%)	60.0%以上	
	中学校	26.0%	(53.3%)	42.8%	(55.1%)	県を上回る	
児童生徒に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用している学校の割合(再掲)【全国学習状況調査】	小学校	100.0%	(87.4%)	100.0%	(87.4%)	現状維持	
	中学校	100.0%	(90.4%)	100.0%	(81.2%)	現状維持	

目 標 指 標		小6・中3	現況値[R5](県)	R6	目標
基本方針 6◆学びを支える土台づくりを推進する					
12 地域とともにある学校づくり					
コミュニティスクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まったと思う学校の割合【全国学習状況調査】		小学校 中学校	100.0% (79.7%) 100.0% (62.8%)	100.0% (87.9%) 100.0% (67.7%)	現状維持 現状維持
13 いきいきと働き、学び続ける教職員への支援					
「学習指導員・支援員」「校務支援システムの導入」「部活動指導員の配置」の着実な実施					着実な実施
14 多様なリスクを想定した学校危機管理への対応					
危機管理マニュアルの見直しと職員への周知の確実な実施		小中学校			着実な実施
15 特別支援教育の幅広い推進					
特別支援学級に在籍している、通級指導を受けている児童生徒に対する個別の指導計画の作成率【特別支援学級等に係る諸調査】		小学校 中学校	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%
特別支援学級に在籍している、通級指導を受けている児童生徒に対する個別の教育支援計画の作成率【特別支援学級等に係る諸調査】		小学校 中学校	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%	100.0% 100.0%
基本方針 7■家庭教育の充実を図る					
16 教育の原点「家庭教育」の充実(重点施策4)					
子育て支援事業(わくわくWS、ベビーマッサージ、わんぱく広場等)の参加延べ人数			1,062人	918人	増加させる
基本方針 8■子(個)の学習支援の充実を図る					
17 子(個)を支える家庭への支援(重点施策4)					
朝食を毎日食べている児童生徒の割合(再掲)【全国学習状況調査】		小学校 中学校	97.9% (95.3%) 88.9% (93.%)	95.7% (95%) 91.4% (93.8%)	100.0% 100.0%
英語能力に関する外部試験を受験した中学校3年生の割合【英語教育実施状況調査】		中学校	36.8% (38.%)	43.9%	県より上回る
基本方針 9■子育てに夢をもてる環境をつくる					
18 安心して子育てができる環境づくり(重点施策5)					
放課後児童健全育成事業への参加延べ人数			9,979人	8,306人	増加させる
19 町ならではの教育基盤の整備(重点施策5)重点施策5)					
自分が住んでいる地域の食べ物に興味を持つことができた児童生徒の割合(再掲)【おいしいふさと給食アンケート】		小・全児童 中・全生徒	90.8% 85.5%	91.7% 84.8%	現状維持 現状維持
食への感謝の気持ちを持つことができた児童生徒の割合(再掲)【おいしいふさと給食アンケート】		小・全児童 中・全生徒	97.1% 96.6%	96.8% 97.1%	現状維持 現状維持
基本方針10●人と社会、学びをつなぐ環境をつくる					
20 地域の教育力向上を目指した学習環境の充実					
「社会教育団体との連携」「大学連携事業」の着実な実施					着実な実施
21 ライフステージに応じた学びの機会の支援					
「栄寿大学の開講」「町づくり出前講座」「まざれや体験」の着実な実施					着実な実施
22 学校・家庭・地域等との連携・協働					
コミュニティスクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まったと思う学校の割合【全国学習状況調査】		小学校 中学校	100.0% (79.7%) 100.0% (62.8%)	100.0% (87.9%) 100.0% (67.7%)	現状維持 現状維持
今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合(再掲)【全国学習状況調査】		小学校 中学校	89.1% (75.6%) 64.8% (49.%)	77.1% 48.7%	- 現状維持 - 現状維持
基本方針11●感性豊かに生きる学びの場をつくる					
23 文化に親しみ、文化を愛する環境づくり(重点施策6)					
図書貸出数の増加			7,126冊	7,868冊	8,500冊
大人の社会科見学「まむろがわスタディツアー」の5年間の参加者数(延べ人数)の増加			271人 (オンライン除く8回)	345人 (オンライン除く10回)	400人
基本方針12●誰もが楽しめるスポーツを推進する					
24 スポーツに親しみ、健康な体づくり(重点施策7)					
町体育施設を使用した町民(延べ人数)の町民人口に対する割合			409.0%	913.0%	現状維持
運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることが好きな児童生徒の割合【全国体力・運動能力等調査】		小学校 中学校	85.8% (89.9%) 97.8% (84.%)	95.0% (90.7%) 81.7% (85.4%)	県を上回る 県を上回る
25 競技スポーツの振興					
真室川町体育協会表彰者(団体)数			6	43	現状維持
基本方針13●ふるさとをおもう心を耕す場をつくる					
26 郷土愛の醸成					
「伝承文化の発表」「文化財の保存・希少動物の保全保護」「町歴史民俗資料館企画展」の着実な実施					着実な実施
大人の社会科見学「まむろがわスタディツアー」の5年間の参加者数(延べ人数)の増加(再掲)			271人 (オンライン除く8回)	345人 (オンライン除く10回)	400人
【全国学習状況調査】【全国体力・運動能力調査】している(当てはまる)・どちらかといえばしている(当てはまる)を合わせた割合					

【評価基準】

評価	評価区分	考え方
A	・ 十分成果が上がっている	優れた取組みや状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に進んでいるもの
B	・ 成果が見える	良い取組みや状況等が見られ、若干の課題はあるものの、概ね順調に進んでいるもの
C	・ 一定の成果が見えるが、改善が必要	一定の成果はあったが課題が生じたもの
D	・ 成果が上がっておらず、抜本的な見直しや廃止の検討が必要	課題が多く着手できていないか、着手してもほとんど成果が上がらない等、計画がほとんど進まなかったもの

事務事業一覧（評価シート一覧）

（単位：千円）

No.	新規 継続	基本 方針	施策	事務事業名	6年度 予算	6年度 決算	内部 評価	外部 評価
1	継続	1	2	スクールカウンセラー活用事業	-	-	A	A
2	拡充	2	4	おいしいふるさと給食（高騰対策等含む）【R6～学校給食無償化事業】	43,110	39,857	A	A
3	継続	2	4	食の教育大使事業	916	304	A	A
4	継続	3	6	学力向上対策事業	288	172	A	A
5	継続	3	7	本物教室本物体験推進事業	847	686	A	A
6	継続	3	7	特別支援教育推進事業 （学習指導員等配置事業）	30,370	29,687	A	A
7	継続	3	7	公営塾運営事業	7,562	7,480	A	A
8	継続	4	8	ふるさと学習推進事業 （特色ある学校づくり推進事業含む）	600	497	A	A
9	継続	5	10	外国語教育推進事業	14,848	14,185	A	A
10	継続	5	11	I C T教育推進サポート事業	1,830	1,728	B	A
11	継続	6	14	教育関係運転業務及び施設維持管理委託事業	57,770	54,504	A	A
12	継続	6	14	学校施設長寿命化事業	139,455	130,554	A	A
13	継続	8	17	県立新庄神室産業高等学校真室川校魅力化 地域連携事業（真室川校支援事業含む）	4,749	3,170	A	A
14	継続	9	18	子育て支援事業の充実（子育て支援拠点事業）	12,083	12,519	A	A
15	継続	9	18	保育施設整備の充実（保育施設長寿命化事業）	30,690	28,076	A	A
16	継続	9	18	放課後児童健全育成事業の充実	11,029	11,029	B	A
17	継続	9	18	保育士等研修会の充実（子どもの育ちと学びをつなぐ研修事業）	380	229	A	A
18	継続	9	18	民間保育施設運営支援	33,075	31,768	A	A
19	継続	9	19	「おいしいふるさと給食」による地産地消教室の推進	131	111	A	A
20	継続	9	19	真室川町教育振興修学資金貸付金	-	-	A	A
21	継続	9	19	副教材費補助事業	7,944	7,651	A	A
22	継続	9	19	保育料無償化等の経済的支援	18,589	18,482	A	A
23	継続	10	22	公民館分館運営費補助金（施設整備費補助金）	3,569	3,564	A	A
24	継続	10	22	社会教育施設長寿命化事業	4,750	4,620	A	A
25	継続	10	23	生涯学習推進事業	488	368	A	A
26	継続	10	23	古河市少年少女交流事業	716	540	A	A
27	継続	10	24	学校・家庭・地域の連携協働推進事業	9,653	9,647	A	A
28	継続	11	25	まちなか図書館構想に基づく学びの拠点づくり事業	763	569	A	A

事務事業一覧（評価シート一覧）

（単位：千円）

No.	新規 継続	基本 方針	施策	事務事業名	6年度 予算	6年度 決算	内部 評価	外部 評価
29	継続	11	25	スタディツアー事業	168	82	A	A
30	継続	12	26	スポーツ部門本物教室事業	30	30	B	B
31	継続	12	26	社会体育施設長寿命化事業	15,811	12,783	A	A
32	継続	12	26	生涯スポーツの振興事業（社会体育費）	7,215	5,533	B	A
33	継続	13	28	ふるさと文化推進事業	2,027	1,718	A	A
34	継続	13	28	文化財保護事業	1,712	1,469	A	A
35	継続	13	28	歴史民俗資料館運営事業	11,235	10,428	A	A

事務事業名	スクールカウンセラー活用事業		所管係	学校教育係
基本方針	1 いのちを尊重し、豊かな心を育成する			
施策名	2 いじめ防止・不登校対策の充実			
事業費	予算額	—	決算額	—

1 目的
いじめや不登校等児童生徒の問題行動・課題等への対応のため、県費によるスクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーク・コーディネーターを配置し、学校におけるカウンセリング機能を高める。

2 現状・進捗

- ・児童生徒へのカウンセリング（個々の実情に合わせた相談等含む） 87件/年
- ・カウンセリング等に関する教職員及び保護者に対する助言・援助 153件/年
- ・児童生徒のカウンセリング等に関する情報収集・提供 12回/年
- ・中学校の全生徒及び小学校高学年に対するレジリエンス教育の実施 12回/年
- ・児童生徒のスクールソーシャルワーカーへの相談 8件/年

3 効果

- ・児童生徒の心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有するものを派遣することにより、児童生徒に寄り添った対応が可能となった。
- ・また、全小中学校でのレジリエンス教育の実施により、児童生徒が困難や逆境に直面したときに乗り越えられる力が養われた。

4 自己評価

評価項目（評価の視点）		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	

内部評価 (評価の理由)

A

中学校を軸にスクールカウンセラー2名及びスクールソーシャルワーク・コーディネーター1名を配置することによって、子どもたちが安心して悩み等を相談できるような体制づくりができた。また、町内全小学校6年生でレジリエンス教育を行い、中学校進学に向けた心の準備も図られた。

「いのちの教育」や「いじめ防止・不登校対策」について、保護者会等で話題にし、家庭での話し合いを推進する必要がある。

外部評価 (外部評価委員の意見等)

A

- ・多様性に応じるため、小学校段階からスクールカウンセラーを活用できることは有意義である。今後も、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーク・コーディネーターが、気軽に活用できる体制に期待したい。
- ・児童生徒へのカウンセリング、また教職員や保護者に対する助言・援助も機能していると感じる。小学校6年生へのレジリエンス教育も続けてほしい。

事務事業名	おいしいふるさと給食（高騰対策含む） 【R6～学校給食無償化事業】		所管係	学校教育係																																
基本方針	2 たくましく、健やかな体を育成する																																			
施策名	4 食育・健康教育の推進																																			
事業費	予算額	43,110千円	決算額	39,857千円																																
1 目的 次代を担う児童生徒の食育と地域の食文化に対する理解を促進するため、質の高い給食及び山形県内産又は真室川町内産の食材を利用した地産地消給食を提供する。																																				
2 現状・進捗 ・特別献立給食の実施 3回 ・生産者との交流 1回 ・おいしいふるさと給食ニュースの発行 3回 ・地産地消食材に係る補助 25円/食、物価上昇率に応じた物価高騰対策補助 R6：30.4%、年3回の特別給食に対する補助 300円/食 による食の確保 【給食費無償化の内容】 基準額（無償化分）小：275円 中：325円＋町補助 25円＋物価高騰 30.4%＝小：392円 中：457円																																				
3 効果 ・緒方湊さん監修メニューをPRすることで、「真室川町」全体のPRにつながった。 ・児童生徒が地元食材を学習することによって、郷土愛の醸成につながった。 ・安全安心な食に対する関心を高めることができた。 ・食を通じた資質能力の育成【食育の充実6つの視点（食事の重要性、心身の健康、食品を選択する能力、感謝の心、社会性、食文化）】につながった。 ・おいしいふるさと給食アンケートで「おいしかった」と答えた児童生徒の割合 86.0%																																				
4 自己評価 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	
内部評価 A		（評価の理由） 緒方湊さん監修のメニューにより地元食材の魅力を最大限引き出すことができ、子どもたちにとっても大好評の給食となった。 R6は給食費の無償化を実施し、保護者の負担軽減に取り組んだが、引き続き国に対し無償化の要望を行う必要がある。 今後、町内農家との契約により地産地消の食材が提供できないか検討する必要がある。																																		
外部評価 A		（外部評価委員の意見等） ・保護者の経済的負担の軽減と児童生徒の食育に効果が大きい。 ・「真室川の給食はおいしい!!」と他の市町村の関係者からも耳にする。食の喜びを感じられ、子ども達への効果は大きい。																																		

事務事業名	食の教育大使事業		所管係	学校教育係
基本方針	2 たくましく、健やかな体を育成する			
施策名	4 食育・健康教育の推進			
事業費	予算額	916千円	決算額	304千円
1 目的 町の教育資源である「伝承野菜」等を活用した探究的な学び及び食育・キャリア教育の充実に向けて、全国的に知名度があり、知的好奇心が豊かで実行力をもつ最年少野菜ソムリエプロ（緒方湊さん）との交流・連携を行い、町の食を誇りにおもう心を醸成する。 活動内容の発信活動を通して、食に関する資質・能力の育成や将来に向けた自己実現や社会（町）づくりに必要な、「起業家精神」を育成する。				
2 現状・進捗 ・おいしいふるさと給食メニューの監修 3回 ・ビデオレターによる交流 1回 ・町広報「みなと通信」の刊行 3回				
3 効果 ・伝承野菜を活用した探究的な学びにより、町を誇りに思う心の醸成につながった。 ・自らの手で販売活動をしたことにより、起業家教育で期待される資質・能力の育成につながった。 ・伝承野菜を通じた食育やキャリア教育を学ぶことによって、自己実現や社会づくり、町づくりに必要な力の育成につながった。				
4 自己評価				
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	
内部評価	（評価の理由） A おいしいふるさと給食における緒方湊さんメニューにより、特別給食に係る地元食材の魅力を引き出すことができたが、令和6年度については令和5年度に引き続き給食メニューの監修や「みなと通信」の発行のみにとどまったことから、次年度以降は湊さん本人との直接交流も含め、起業家精神に係る取組みを実施する必要がある。			
外部評価	（外部評価委員の意見等） A ・おいしいふるさと給食に加え、真室川町食の教育大使である緒方湊さん本人が来町され、話を聞いたり質問したりできれば食への関心も更に高まると思う。			

事務事業名	学力向上対策事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	3 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する																															
施策名	6 確かな学力を育む指導																															
事業費	予算額	288千円	決算額	172千円																												
1 目的 小中学校が連携し授業改善を通して、子どもたちに社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育むために、日々の授業改善への意識と実践力の向上を目的とする。 2 現状・進捗 ・授業づくりと真室川スタンダードの活用、外部講師を招聘した小中学びづくり研修会や校内授業研究などの実施 9回/年 ・各学校による、児童生徒の実態に応じた授業改善 ・探究型学習による主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善 3 効果 ・小中合同で研修会を実施することで、授業づくりにおける小中連携の強化が図られた。 ・授業改善に対する教師の意識と実践力の向上がみられた。 ・子どもたちに社会を生き抜く基盤となる確かな学力の育成につながった。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 「真室川町授業づくりスタンダード」により、各学校が児童生徒の実態に応じた授業づくりを行ったことで、指導の際の重視すべきことを共通理解の上実践することができた。今後は、協働的な学びや個別最適な学びによる資質・能力を育む授業づくりについてさらに研修を行っていく必要がある。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・同一の外部講師による専門的な指導及び小中合同の研修体系は、教育観・指導観を共有することに大変効果がある。 ・教育振興計画をはじめ、教育委員会で様々な細かな目標や取組みをしていることを評価する。					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	本物教室本物体験推進事業			所管係	学校教育係
基本方針	3 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する				
施策名	7 確かな学力を育む環境整備・支援				
事業費	予算額	847千円	決算額	686千円	

1 目的

こども園・保育所、小・中学校で「人」「もの」「こと」に直接触れる「本物教室」等を通して、豊かな感性を育む。
大学生と交流・学習する機会を設定し、成長への憧れや知的好奇心を醸成する。

2 現状・進捗

- ・民話芸術座による演劇鑑賞の開催 1回（銀河鉄道の夜）
- ・本物教室、本物体験
小学校（アランマーレとの交流、科学実験教室、ダンス教室、桂吉弥落語会等）
中学校（中総体時の各種事業への参加 ※ピザづくり体験などへの参加）
- ・真校生とあさひ小学校児童との伝承野菜と活用した合同料理教室の開催 1回

3 効果

- ・本物の体験、鑑賞によって豊かな感性の醸成につながった。
- ・町を誇りにおもう心の醸成につながった。
- ・成長への憧れ（成長の実感、知的好奇心）が育まれた。

4 自己評価

評価項目（評価の視点）		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	

内部評価	（評価の理由） 生で見る演劇鑑賞により豊かな感性を育む教育や、真校生とあさひ小学校児童との合同調理実習による異校種交流・学習機会の設定等により、知的好奇心の醸成が図られた。 大学生との交流により、幅広い進路に関して興味を持てた。
A	

外部評価	（外部評価委員の意見等） ・キラキラとした子どもの目、生で見れる感動は記憶にも残る。いろいろなスポーツをしている子ども達がいるので、モンテディオのサッカー選手やテニス、バドミントン、バスケ、野球など、中学校にある部活の選手も来てくれたら夢も広がるのではないか。
A	

事務事業名	特別支援教育推進事業 (学習指導員等配置事業)		所管係	学校教育係																																				
基本方針	3 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する																																							
施策名	7 確かな学力を育む環境整備・支援																																							
事業費	予算額	30,370千円	決算額	29,687千円																																				
1 目 的 真室川町における特別支援教育の充実を図るため、各校に学習指導員及び支援員を配置しながら個々の能力に応じた学習補助を行うことを目的とする。 2 現状・進捗 ・学習指導員の配置 4名（真小 2名、あさひ小 1名、真中1名） ・学習支援員の配置 7名（真小 3名、あさひ小 1名、北部小 1名、真中 2名） 3 効 果 ・児童生徒の個々の能力に応じたきめ細かな指導及び支援ができています。 ・教職員の負担軽減につながっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由）</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>特別支援学級に係る各校の実情に合わせた学習指導員や学習支援員の配置によりきめ細かな指導・支援ができ、教職員の負担軽減にもつながった。</td> </tr> </table> 外部評価 （外部評価委員の意見等） ・特別支援的に配慮が必要な児童等への対応だけでなく、多様な価値観を持った児童等への対応も増加してきているため、学習指導員・支援員等の配置は、学校現場にとって大変ありがたいものとなっていると思われる。拡充を希望する学校もあると感じる。 A					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由）	A	特別支援学級に係る各校の実情に合わせた学習指導員や学習支援員の配置によりきめ細かな指導・支援ができ、教職員の負担軽減にもつながった。
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																				
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																				
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																					
		C	必要性や緊急性が低い																																					
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																				
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																					
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																					
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																				
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																					
		C	適切でない																																					
内部評価	（評価の理由）																																							
A	特別支援学級に係る各校の実情に合わせた学習指導員や学習支援員の配置によりきめ細かな指導・支援ができ、教職員の負担軽減にもつながった。																																							

事務事業名	公営塾運営事業			所管係	学校教育係
基本方針	3 社会を生き抜く基盤となる確かな学力を育成する				
施策名	7 確かな学力を育む環境整備・支援				
事業費	予算額	7,562千円	決算額	7,480千円	

1 目的
 学校・家庭・地域が連携し、児童・生徒が学ぶことができる環境づくりのサポートと、個別の学びに応じた学習の定着を図ることを通して、英語への関心と公営塾の通塾率を高め、グローバル化社会に対応できる人材を育成する。

2 現状・進捗

- ・児童生徒の英検受験希望のコース別指導
- ・英検受験料助成（学年相当級以上受験に対し、年1回助成） 延べ55件
- ・英検対策講座の通年開講 受講者 60人
- ・夏期及び春期の算数・数学講座の開講 受講者 延べ70人

3 効果

- ・中学生の英検3級以上の高い受験率及び合格率を維持することができている。
- ・進路選択の拡大につながっている。
- ・グローバル化社会に対応した人材の育成につながっている。

4 自己評価

評価項目（評価の視点）		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	
内部評価	（評価の理由） 英検対策講座、算数・数学講座を開講し、昨年度と同程度の受講者数を確保することができた。また、遠方の児童生徒に対する対策として、オンライン講座を開設し、準2級2名の受講者があった。			
外部評価	（外部評価委員の意見等） ・子どもを持つ親にとっては、無料で受講できるため、とても有り難い事業だと感じる。			

A

事務事業名	ふるさと学習推進事業 (特色ある学校づくり推進事業含む)		所管係	学校教育係																																
基本方針	4 未来に向け、自己の生き方を考える力を育成する																																			
施策名	8 未来に向けた「ふるさと学習」の推進																																			
事業費	予算額	600千円	決算額	556千円																																
1 目的 地域の理解を深めるため、町教育資源「人」「もの」「こと」などを活用した探究的な学びを推進し、地域の過去に学び、今を見つめ、未来を考え、学んだことを町内・町外に紹介・発信する活動を通して、町を誇りにおもう心を醸成する。																																				
2 現状・進捗 ・総合的な学習の時間を核とし、地域財産を活用した特色あるふるさと学習の展開 ・小学校から中学校までの系統性あるふるさと学習の推進に向けたカリキュラムの活用による実施 真小：桜餅づくり、ダンス教室、スキー教室 北部小：森林学習、スキー教室 あさひ小：伝承野菜学習、炭焼き体験、昔語り・童歌 真中：班ごとの町への提言																																				
3 効果 ・町を誇りにおもう心の醸成（町に生きる意欲の喚起、町の未来を創造する態度、町のよさの発見・発信）につながった。 ・真室川中学校生徒による町への提言によって、起業家教育で期待される資質、能力の育成（チャレンジ精神、創造性、実行力、コミュニケーション力 等）につながった。																																				
4 自己評価 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th><th colspan="2">評価区分</th><th>判定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td><td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td><td>A</td><td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td><td rowspan="3">A</td></tr> <tr> <td>B</td><td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td></tr> <tr> <td>C</td><td>必要性や緊急性が低い</td></tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td><td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td><td>A</td><td>目標を達成している</td><td rowspan="3">A</td></tr> <tr> <td>B</td><td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td></tr> <tr> <td>C</td><td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td></tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td><td rowspan="5">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td><td>A</td><td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td><td rowspan="5">A</td></tr> <tr> <td>B</td><td>対象や負担の見直しの余地がある</td></tr> <tr> <td>C</td><td>適切でない</td></tr> </tbody> </table>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	
内部評価 (評価の理由) A 小学校では伝承野菜を使った真校生との合同調理実習や、森林学習の一環である炭焼き体験教室などのふるさと学習により地域の理解が深まり、中学校では小学校のふるさと学習を基盤とした探究学習により町への提言につなげ、町や地域をおもう心が醸成に培っている。																																				
外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・各校のふるさと学習の充実を感じる。総合的な学習の時間の中学校最終段階を意識した学びを見据えた小中のつながりのある学びの展開をさらに期待したい。																																				

事務事業名	外国語教育推進事業		所管係	学校教育係																																				
基本方針	5 グローバル化・情報化に対応した力を育成する																																							
施策名	10 こ・保・小・中一貫の外国語活動・外国語教育の推進																																							
事業費	予算額	14,848千円	決算額	14,185千円																																				
1 目 的 学校・家庭・地域が連携し、児童・生徒が学ぶことができる環境づくりのサポートと、個別の学びに応じた学習の定着を図ることを通して、英語への関心を高め、グローバル化社会に対応できる人材を育成する。 2 現状・進捗 ・外国語指導助手（雇用） 1名 ・外国語指導助手（派遣） 1名 ・英語指導補助員 1名 3 効 果 ・児童生徒の個々の能力に応じたきめ細かな指導及び支援ができている。 ・教職員の負担軽減につながっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由）</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>外国語授業に係る個別の実情に合わせた外国語指導員や補助員の配置により、きめ細かな指導・支援ができ、教職員の負担軽減にもつながった。</td> </tr> </table>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由）	A	外国語授業に係る個別の実情に合わせた外国語指導員や補助員の配置により、きめ細かな指導・支援ができ、教職員の負担軽減にもつながった。
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																				
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																				
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																					
		C	必要性や緊急性が低い																																					
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																				
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																					
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																					
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																				
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																					
		C	適切でない																																					
内部評価	（評価の理由）																																							
A	外国語授業に係る個別の実情に合わせた外国語指導員や補助員の配置により、きめ細かな指導・支援ができ、教職員の負担軽減にもつながった。																																							
外部評価	（外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。 A																																							

事務事業名	I C T教育推進サポート事業		所管係	学校教育係																												
基本方針	5 グローバル化・情報化に対応した力を育成する																															
施策名	11 教育D Xの推進																															
事業費	予算額	1,830千円	決算額	1,728千円																												
1 目 的 新たな時代を生きる子どもたちにグローバル化・情報化に対応した力を育成するために、教員の指導スキルの向上と効果的なI C T教育の推進を図る。 2 現状・進捗 ・学校におけるI C T活用 - 電子図書の活用 全児童生徒 - I C T支援員の配置 各校1回/月 ・家庭におけるI C T活用 - 休日等の学習支援ソフトによる学習の定着 3 効 果 ・児童生徒の情報活用能力の育成につながる授業、家庭学習におけるI C T活用の拡大につながった。 ・I C Tの強みを生かした個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善への教員意識の向上につながった。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) B ・一人一台端末の利活用の充実を図るため支援員の配置や学習支援ソフト、電子図書システムの導入と順調な事業拡充に向けた取り組みは、大いに評価できるが、今後町内全小中学校全員の利活用の拡充と日常化を期待したい。 ・コロナ禍が落ち着いてからは家庭学習に活用する機会も少なくなっているように思う。より何らか活用する場面を検討すべきと考える。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・I C T支援員の授業レベルでのサポートを、さらに期待したい。 ・家庭学習に活用する機会が増えるよう期待する。					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	教育関係運転業務及び施設維持管理委託事業	所管係	学校教育係	
基本方針	6 学びを支える土台づくりを推進する			
施策名	14 多様なリスクを想定した学校危機管理への対応			
事業費	予算額	57,770千円	決算額	54,504千円

1 目的
 学校の統廃合に伴う遠距離通学のための「通学支援」や、歩道などがない通学路に対する「安全確保」により、登下校に対する通学環境を整備する。
 町内に分散する各教育施設について、常日頃から適切な施設管理を効率的・効果的に行う。

2 現状・進捗
 スクールバスの対応
 ・小学生の夏季休業中のプール利用、中学生の部活動関連に対するスクールバスの対応
 ・各教育施設の維持管理
 ・熱中症及び熊対策によるスクールバスの配置

3 効果
 ・児童生徒の登下校時に係る安全確保が図られた。
 ・各教育施設の適切かつ効率的・効果的な維持管理が図られた。

4 自己評価

評価項目（評価の視点）	評価区分	判定
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A
	B 緊急ではないが、教育ニーズがある	
	C 必要性や緊急性が低い	
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A 目標を達成している	A
	B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
	C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B
	B 対象や負担の見直しの余地がある	
	C 適切でない	

内部評価 (評価の理由)
A スクールバス対象地区については、除雪による幅員狭小道路や歩道のない地区の児童生徒を対象とした増便を行い、安全確保に努めることができた。また、黒球熱中症指数計による熱中症対策、熊出没による徒歩通学の児童生徒対象にスクールバスの臨時便を増便し対応した。

外部評価 (外部評価委員の意見等)
A ・熱中症対策や熊対策など、臨機応変にスクールバスを増便しているのは、安全面からも大変効果がある。

事務事業名	学校施設長寿命化事業		所管係	学校教育係																																
基本方針	6 学びを支える土台づくりを推進する																																			
施策名	14 多様なリスクを想定した学校危機管理への対応																																			
事業費	予算額	139,455千円	決算額	130,554千円																																
1 目的 児童生徒の快適な学習環境を維持するため、年次計画により計画的な改修を実施し、学校施設の長寿命化を図る。 2 現状・進捗 - 令和2年度策定の小中学校長寿命化個別施設計画に基づき、令和12年度までの10年間の計画期間における施設長寿命化を推進する。 - 令和6年度実施事業 - 真小：床暖房設備更新工事、消防設備更新工事 - あさひ小：給排水管及び浄化槽更新工事（学校施設環境改善交付金） - 北部小：プール改修工事、屋内運動場照明更新工事 - 各校共通：大型冷風機購入（小学校）、学習用大型モニター追加購入（小中学校） 3 効果 - 長寿命化により使用年数の向上とライフサイクルコストの縮減、財政負担の平準化が図られた。 - 毎年各学校施設の老朽化状況を確認し、必要に応じて改修の優先度の見直しを行い、予防保全を進めることができた。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 A （評価の理由） 安全な学習環境確保のため、計画的な改修が必要である。国庫補助金である学校施設環境改善交付金を活用し、財政負担の軽減を図りながら中長期的な改修が進められた。また、物価高騰等により当初計画の概算事業費よりも実施事業費は大きくなっている。 外部評価 A （外部評価委員の意見等） - 意見等特になし。					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	県立新庄神室産業高等学校真室川校魅力化地域連携事業 (真室川校支援事業含む)			所管係	学校教育係																																
基本方針	8 子(個)の学習支援の充実を図る																																				
施策名	17 子(個)を支える家庭への支援																																				
事業費	予算額	4,749千円	決算額	3,170千円																																	
1 目 的 真室川校の地域に根差した教育活動を支援し、活力あるまちづくりと地域への誇りと愛着を持ち、地域をののために何かしたいと思うような地域を支える人材育成を図る。 2 現状・進捗 ・入学者数 R5:7人(うち真中生 3人) → R6:9人(うち真中生 7人) ・入学及び進学支援金(入学:10万円、進学:5万円)、資格取得支援の実施等 ・【新規取組】真室川駅120周年事業への参加、協力隊を招いた授業、東北専門職大学による出前授業 ・【継続取組】きずな授業(歌、工作、書道等)、さなぶり手仕事まつり(伝承野菜の料理提供)、地域探究プログラム、eスポーツ、ふきのとうJr.の配布、小高合同調理実習、キャリア教育の推進、ボランティアの実施、コーディネーターの配置 3 効 果 ・地域に愛着を持つ生徒の増加により、地域を支える人材の育成が図られた。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目(評価の視点)</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか(目的達成度)</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 少子化に伴い、1クラス定員40名の半数20名には達していないが、進路選択の一つとして地域と一体となった授業や交流を行っている真室川校は、地域にとって魅力のある欠かせない高校となっている。引き続き、継続した魅力ある事業を実施していく必要がある。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・自然が多い環境を生かし、林業に特化した高校にし、全国から人を集めるのもひとつの手だと思う。						評価項目(評価の視点)		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目(評価の視点)		評価区分		判定																																	
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																	
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																		
		C	必要性や緊急性が低い																																		
有効性	成果が得られているか(目的達成度)	A	目標を達成している	B																																	
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																		
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																		
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である(対象変更や負担の見直しは不可能)	A																																	
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																		
		C	適切でない																																		

事務事業名	子育て支援事業の充実（子育て支援拠点事業）		所管係	子育て支援係																						
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																									
施策名	18 安心して子育てができる環境づくり																									
事業費	予算額	12,083千円	決算額	12,519千円																						
1 目 的 就学前の乳幼児とその保護者の遊びの場、交流の場、子育て相談の場づくりとして事業を実施し、子育てへの支援を図る。他機関や他施設の子育ての様々な情報を提供する。 2 現状・進捗 ・令和6年度事業 ①子育て支援センター開所（土曜開所含む） 617名 ②ベビーマッサージ（11回） 74名 ③ワークショップ（6回） 52名 ④読み聞かせ&おしゃべり会（5回） 46名 ⑤スマイルツアーDay（3回） 50名 ⑤遊びの広場（月2回） 79名 3 効 果 ・子育て孫育て中の保護者が集い、子育てについての情報交換や、助産師への個別相談等から子育てを楽しむ気持ちと、育児への安心感を育むことが期待できる。また、託児をして、講座に参加することで子育て中のリフレッシュと参加者同士の交流へとつながっている。 ・参加者と一緒に町内施設を訪問することで、町のPRにつながった。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th>評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B 緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C 必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A 目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B 対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C 適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 A （評価の理由） 出生数の減少や低年齢の保育施設利用増加など、事業の対象者が減少しているが、町外からの利用もあり、事業参加者数はほぼ前年並みであった。世代間交流を図りながら、利用者のニーズと年齢に合わせた事業を開催しており、行政として子育て世代の居場所の提供は継続して必要な事業である。 外部評価 A （外部評価委員の意見等） ・出生数の減少により、同世代の子を持つ親の交流も少なくなっている中、スマイルツアーDayはつながりを持つ意味でも期待できる事業だと思う。					評価項目（評価の視点）		評価区分	判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B 緊急ではないが、教育ニーズがある	C 必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A 目標を達成している	A	B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B 対象や負担の見直しの余地がある	C 適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分	判定																							
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																							
		B 緊急ではないが、教育ニーズがある																								
		C 必要性や緊急性が低い																								
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A 目標を達成している	A																							
		B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																								
		C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																								
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																							
		B 対象や負担の見直しの余地がある																								
		C 適切でない																								

事務事業名	保育施設整備の充実（保育施設長寿命化事業）			所管係	子育て支援係																																				
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																								
施策名	18 安心して子育てができる環境づくり																																								
事業費	予算額	30,690千円	決算額	28,076千円																																					
1 目的 安心・安全な保育活動を確保するほか、低年齢児の入所希望の増加など保護者ニーズに応えるため、保育施設の整備について計画的な推進を図る。 2 現状・進捗 ・保育施設個別更新計画を策定済みであり、適正な時期に調査設計、改修工事等を行っていく。 ・令和6年度事業（施工費100万円以下の小破修繕を除く） ①釜淵保育所屋根外壁修繕工事監理委託料 1,298,000円 ②釜淵保育所屋根外壁修繕工事 24,907,300円 ③釜淵保育所駐車場等整備工事設計委託料 1,870,000円 3 効果 ・快適な保育環境づくりや安全対策に効果が大きい。 （内装の改築、空調や水回りなどの整備のほか、屋根外壁の改修による雨漏りの解消、駐車場整備による駐車台数の確保 など） 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由）</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td> 保育所等の社会福祉施設は、事故等が発生しない安心安全な環境が前提であり、予防保全的な対処として、速やかな対応が必要となる。 安全配慮の観点から小破修繕は速やかに対応し、金額の高いものは優先度の高いものから長期的な年度計画を作成し、随時改修を進めている。 </td> </tr> </table> 外部評価 （外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。 A						評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由）	A	保育所等の社会福祉施設は、事故等が発生しない安心安全な環境が前提であり、予防保全的な対処として、速やかな対応が必要となる。 安全配慮の観点から小破修繕は速やかに対応し、金額の高いものは優先度の高いものから長期的な年度計画を作成し、随時改修を進めている。
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																					
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																					
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																						
		C	必要性や緊急性が低い																																						
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																					
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																						
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																						
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																					
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																						
		C	適切でない																																						
内部評価	（評価の理由）																																								
A	保育所等の社会福祉施設は、事故等が発生しない安心安全な環境が前提であり、予防保全的な対処として、速やかな対応が必要となる。 安全配慮の観点から小破修繕は速やかに対応し、金額の高いものは優先度の高いものから長期的な年度計画を作成し、随時改修を進めている。																																								

事務事業名	放課後児童健全育成事業の充実	所管係	子育て支援係																		
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																				
施策名	18 安心して子育てができる環境づくり																				
事業費	予算額	11,029千円	決算額 11,029千円																		
1 目的 保護者が就労等で保育できない小学生に対し、安全な居場所として学童クラブ（放課後学童クラブ）として居場所を提供することにより、放課後や学校休業日時間を有意義に過ごすことや、学習の見守り、遊びの機会を提供するなど、子どもたちの健全な成長をサポートする。 2 現状・進捗 ・社会福祉協議会に業務を委託。社協事務職員を含む11人態勢で学童クラブを運営。 ・真室川学童クラブ、北部学童クラブ、あさひ学童クラブの三か所でそれぞれ学校の余裕教室を活用して実施し、1年生から6年生までの児童を受け入れている。 ・R6年度より、兄弟等で利用しても1世帯の利用料を月最大3,000円とし負担軽減を図っている。 ・R6年度の開所日数 真室川：235日、北部：235日、あさひ小：227日 登録者 真室川59名、北部21名、あさひ15名(R7.3末) 年間延べ利用人数 8,306人。 3 効果 ・支援員、補助員の見守りの中、子ども達が安心安全に過ごすことで、学習意欲の向上や社会性の育ちに効果があった。 ・学校休業日の保育など保護者の就労支援や安心感につながった。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th><th>評価区分</th><th>判定</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td><td>A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td><td rowspan="3">A</td></tr> <tr> <td>B 緊急ではないが、教育ニーズがある</td></tr> <tr> <td>C 必要性や緊急性が低い</td></tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td><td>A 目標を達成している</td><td rowspan="3">B</td></tr> <tr> <td>B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td></tr> <tr> <td>C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td></tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td><td>A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td><td rowspan="3">A</td></tr> <tr> <td>B 対象や負担の見直しの余地がある</td></tr> <tr> <td>C 適切でない</td></tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) B 子どもたちに放課後や学校休業日に安全な生活と遊びの場を提供することで、社会性や協調性が育まれ、働く保護者の仕事と子育ての両立の支援につながっている。 一方、国による放課後児童クラブ運営指針が改訂され、支援員研修による多様なサービスの提供、児童を中心とした関わり方などが求められており、支援員の資質向上と学童クラブの社会的責任と職場倫理等の強化が求められる。今後より一層の支援内容の充実と運営面の向上を図っていく必要がある。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・意見等特になし。				評価項目（評価の視点）	評価区分	判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B 緊急ではないが、教育ニーズがある	C 必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A 目標を達成している	B	B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B 対象や負担の見直しの余地がある	C 適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分	判定																			
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																			
	B 緊急ではないが、教育ニーズがある																				
	C 必要性や緊急性が低い																				
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A 目標を達成している	B																			
	B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																				
	C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																				
公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																			
	B 対象や負担の見直しの余地がある																				
	C 適切でない																				

事務事業名	保育士等研修会の充実 (子どもの育ちと学びをつなぐ研修事業)			所管係	子育て支援係																																
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																				
施策名	18 安心して子育てができる環境づくり																																				
事業費	予算額	380千円	決算額	229千円																																	
1 目的 保育指針に掲げる「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を踏まえながら、こ保小のスムーズな接続につなげるため、研修会を開催し保育の質の向上を図る。具体的には、様々な専門家より指導を頂くことで保育スキルの向上を目指すほか、町外の保育施設を視察しその保育を振り返ることで、新たな保育の可能性を探求するなどを行っている。 2 現状・進捗 ・R6年度研修内容 ①こ保小連携研修会 外部講師による年3回開催。 対象者：幼児施設、小学校の職員 研修受講者数：真小学区33名、あさひ小学区28名、北部小学区24名 ②運動遊び研修会 外部講師による 6回開催 参加延べ人数：たんぼぼこども園3回（19名）、安楽城保育所2回（14名）、釜淵保育所1回（10名） ③保育施設視察研修 2回開催、参加者数：庄内地区施設（6名）、最上地区施設（8名） 3 効果 ・幼児施設と小学校職員が「幼児期までに育ってほしい姿」を視点に、子どもの姿の見取りと語り合いにより、こ保小の連携と子どもへの理解が深まり、「架け橋プログラム」作成が円滑に進み、主体的な保育の実践につながった。 ・専門家の指導から子どもの可能性や専門知識の習得が図られた。 ・保育施設の視察から、自らの保育の振り返りと保育環境の改善につながった。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 保育士一人ひとりが、研修からの学びを意識しながら保育を行っていることで、施設全体で保育の質の向上が見られた。継続的なこ保小連携により「架け橋プログラム」が作成され、町内保育施設と小学校との共通意識が高まった。保育の質の向上と、小学校との連携は保護者へ安心感をもたらしている。今後も継続した研修が必要である。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・幼保小が、育てたい資質・能力を共有し、幼児期から保育・教育を展開していくことは大変重要であると考え、事業の継続を願いたい。						評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																	
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																	
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																		
		C	必要性や緊急性が低い																																		
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																	
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																		
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																		
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																	
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																		
		C	適切でない																																		

事務事業名	民間保育施設運営支援		所管係	子育て支援係																																				
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																							
施策名	18 安心して子育てができる環境づくり																																							
事業費	予算額	33,075千円	決算額	31,768千円																																				
1 目的 出生数の減少に伴う保育施設の収入減が顕著であるため、受入れ体制の整備や施設備品購入を補助することにより、保育環境を充実や保育サービスの継続を支援し、保護者の保育ニーズに応える。 2 現状・進捗 ・低年齢児対策補助金 民間2施設 低年齢児の受入れ対応のために、基準より保育士等を多く配置した場合に人件費を補助。 ・要配慮児童対応補助金 民間1施設 要配慮児童の対応に担任以外の保育士をクラスに配置した場合に人件費を補助。 ・保育施設備品購入等支援事業費補助金 民間1施設 保育施設が直接申請した補助金について施設の自己負担分を町が補助。 ・延長保育事業補助金 民間1施設 延長保育事業に係る光熱水費や人件費のうち国が定める基準額を上限として補助。 3 効果 民間保育施設の収入減に対する補助を行ったことで、これまでの保育サービスが継続可能になっているほか、保護者の新たなニーズにも応えることが可能になっており、結果的に子育て世帯への支援につながった。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由）</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>保育施設のサービスの充実、より良い保育環境と保護者のニーズ対応という点で切り離せないものであり、出生数の減少に伴う補填は公的機関が実施するほかなく、結果的に子育て世帯へサービス提供となっている。</td> </tr> </table> 外部評価 （外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。 A					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由）	A	保育施設のサービスの充実、より良い保育環境と保護者のニーズ対応という点で切り離せないものであり、出生数の減少に伴う補填は公的機関が実施するほかなく、結果的に子育て世帯へサービス提供となっている。
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																				
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																				
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																					
		C	必要性や緊急性が低い																																					
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																				
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																					
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																					
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																																				
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																					
		C	適切でない																																					
内部評価	（評価の理由）																																							
A	保育施設のサービスの充実、より良い保育環境と保護者のニーズ対応という点で切り離せないものであり、出生数の減少に伴う補填は公的機関が実施するほかなく、結果的に子育て世帯へサービス提供となっている。																																							

事務事業名	「おいしいふるさと給食」による地産地消教室の推進（再掲）			所管係	子育て支援係																																								
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																												
施策名	19 町ならではの教育基盤の整備																																												
事業費	予算額	131千円	決算額	111千円																																									
1 目 的 幼児期から地域の食文化に触れることで、食や地域への興味関心を促進するとともに、山形県内産又は真室川町内産の食材を用いた質の高い地産地消給食を提供し、郷土愛の醸成を図る。 2 現状・進捗 ・町内の保育所2か所と認定こども園1か所において年3回実施し、児童も読めるイラスト入りのニュー表などを配布し説明を行うことで、県内、町内の食材についての知識・関心を深めている。 ・通常の給食とは別に、一食あたり300円の食材費に高騰対策分54円の計354円を上乗せしメニューを作成、特別な献立の給食を提供している。 3 効 果 ・真室川産の食材への興味・知識が深まるほか、食べたことのない食材やメニューへの興味を引き出す効果がみられた。 ・小学校でも行われている事業であり、食を楽しむことで豊かな心の育成と郷土愛の醸成につながっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由）</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>保育施設での食育に適した事業であり、回を重ねるごとに、季節を感じながら、食材への興味や関心が深まっている様子が見られる。緊急性のある事業ではないが、幼児期から地域の食文化に触れ、その後、小中学校へとつながることで郷土愛の醸成に役立っていると考えられる。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>外部評価</td> <td>（外部評価委員の意見等）</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>・おいしいふるさと給食に人気の給食メニューも加え、給食メニュー本があると良いと思う。食べている子ども達の写真も入れて工夫してはどうか。</td> </tr> </table>						評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由）	A	保育施設での食育に適した事業であり、回を重ねるごとに、季節を感じながら、食材への興味や関心が深まっている様子が見られる。緊急性のある事業ではないが、幼児期から地域の食文化に触れ、その後、小中学校へとつながることで郷土愛の醸成に役立っていると考えられる。	外部評価	（外部評価委員の意見等）	A	・おいしいふるさと給食に人気の給食メニューも加え、給食メニュー本があると良いと思う。食べている子ども達の写真も入れて工夫してはどうか。
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																									
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																									
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																										
		C	必要性や緊急性が低い																																										
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																									
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																										
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																										
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																									
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																										
		C	適切でない																																										
内部評価	（評価の理由）																																												
A	保育施設での食育に適した事業であり、回を重ねるごとに、季節を感じながら、食材への興味や関心が深まっている様子が見られる。緊急性のある事業ではないが、幼児期から地域の食文化に触れ、その後、小中学校へとつながることで郷土愛の醸成に役立っていると考えられる。																																												
外部評価	（外部評価委員の意見等）																																												
A	・おいしいふるさと給食に人気の給食メニューも加え、給食メニュー本があると良いと思う。食べている子ども達の写真も入れて工夫してはどうか。																																												

事務事業名	真室川町教育振興修学資金貸付金		所管係	学校教育係																		
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																					
施策名	19 町ならではの教育基盤の整備																					
事業費	予算額	—	決算額	—																		
1 目的 教育振興修学資金の貸付を希望する者に修学資金を貸与することにより、有為な人材を育成するとともに教育の機会均等に寄与することを目的としている。 2 現状・進捗 ・新規貸与 4名 ・継続貸付 14名 ・返還中 59名 (参考 R5：新規貸与 3名、継続貸付 15名、返還中 71名) 3 効果 高校卒業後の進学先の拡充が図られ、誰もが希望する職業を目指すことができる制度となっており、教育の機会均等が図られた。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th>評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B 緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C 必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A 目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B 対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C 適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A ニーズもあり、教育の機会均等が図られた。今後は、申し込みの時期や高校入学に対する貸付、給付型の修学資金を検討する必要がある。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・意見等特になし。					評価項目（評価の視点）	評価区分	判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B 緊急ではないが、教育ニーズがある	C 必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A 目標を達成している	A	B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B 対象や負担の見直しの余地がある	C 適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分	判定																				
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A 教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																				
	B 緊急ではないが、教育ニーズがある																					
	C 必要性や緊急性が低い																					
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A 目標を達成している	A																				
	B 目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																					
	C かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																					
公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A 適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																				
	B 対象や負担の見直しの余地がある																					
	C 適切でない																					

事務事業名	副教材費補助事業		所管係	学校教育係																																								
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																											
施策名	19 町ならではの教育基盤の整備																																											
事業費	予算額	7,944千円	決算額	7,651千円																																								
1 目 的 学校で使用する副教材費を無償化し、保護者の経済的負担を軽減することで、子どもが安定して学習に取り組む家庭環境をつくる。 2 現状・進捗 - 小中学校で使用するテスト、ドリル、副読本、ワーク、プリント等の公費負担 <table border="0"> <tr> <td>小学校</td> <td>4,429千円</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>3,222千円</td> </tr> </table> 3 効 果 - 保護者の経済的負担の軽減が図られた。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由） 副教材費の公費負担を継続実施し、保護者負担の軽減が図られた。</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td></td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>外部評価</td> <td>（外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td></td> </tr> </table>					小学校	4,429千円	中学校	3,222千円	評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由） 副教材費の公費負担を継続実施し、保護者負担の軽減が図られた。	A		外部評価	（外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。	A	
小学校	4,429千円																																											
中学校	3,222千円																																											
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																																									
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																									
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																										
	C	必要性や緊急性が低い																																										
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																									
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																										
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																										
公平性 児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																									
	B	対象や負担の見直しの余地がある																																										
	C	適切でない																																										
内部評価	（評価の理由） 副教材費の公費負担を継続実施し、保護者負担の軽減が図られた。																																											
A																																												
外部評価	（外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。																																											
A																																												

事務事業名	保育料無償化等の経済的支援		所管係	子育て支援係																																
基本方針	9 子育てに夢をもてる環境をつくる																																			
施策名	19 町ならではの教育基盤の整備																																			
事業費	予算額	18,589千円	決算額	18,482千円																																
1 目的 子育て世帯にかかる負担について、その解消を図るために町独自施策を展開し、安心して子育てができる環境づくりを推進する。 2 現状・進捗 ・保育料軽減事業 ①町独自軽減事業 令和6年度から保育料を完全無償化。 ②県段階的無償化事業 所得階層8区分のうち、第3・第4階層を県と連携して無償化する。 ③育児休業中保育利用料給付金事業 - たんばぼこども園を利用する児童の保護者が育児休業を利用する場合、保育短時間認定と同様のサービスを受けるために必要となる利用料や副食費を給付する。 ・副食費補助事業 国基準の副食費免除対象から外れる場合に、町で補助する。 ・家庭保育支援給付金 1歳未満の児童を家庭で保育する場合に、月額30,000円までを支給する。 3 効果 子育て世帯の保育に係る費用負担を軽減することにより、子育て世帯では経済的な余裕を持つことができた。子育て世代の生活が安定することにより、子育てに対する安心感が図られ、子どもの健全な育成に繋がっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">児童生徒や保護者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 子育て世帯の保育に係る費用負担の軽減及び家庭保育給付金は、保護者のニーズがあり、生活の経済的負担の軽減につながっているため。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・意見等特になし。					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	児童生徒や保護者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	公民館分館運営費補助金/施設整備費補助金		所管係	生涯学習係
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる			
施策名	22 地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実			
事業費	予算額	3,659千円	決算見込額	3,564千円

1 目的
町内集落における地域活動の活性化を促進するため、真室川町公民館設置及び管理条例に規定する分館の修繕及び管理運営する費用に対して、補助することを目的とする。

2 現状・進捗

- ・運営費補助金
(光熱費など分館の維持管理経費 補助率10/10 上限40千円)
町内55分館中53分館申請 2,105千円
- ・施設整備費補助金
(分館の改修、新築、解体、大型備品購入 事業費下限100千円 補助率1/3 上限3,000千円)
12分館申請 1,459千円(屋根外壁10件 エアコン設置2件)

3 効果

- ・地域で社会教育の場として使用されている分館の維持管理経費について、地元負担軽減の一助となっている。

4 自己評価

評価項目 (評価の視点)		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか (目的達成度)	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である (対象変更や負担の見直しは不可能)	B
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	

内部評価	(評価の理由)
A	多くの分館において、維持管理経費の負担軽減につながっている一方で、人口減少や高齢化の課題があり、社会教育活動よりも集会所としての役割が多くみられる。また、戸数が少ない地域では、施設整備の2/3の地元負担も大きく感じている場合も見られる。

外部評価	(外部評価委員の意見等)
A	・意見等特になし。

事務事業名	社会教育施設長寿命化事業		所管係	生涯学習係																												
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																															
施策名	22 地域の教育力向上を目指した学習環境等の充実																															
事業費	予算額	4,750千円	決算見込額	4,620千円																												
1 目的 これまでの対処保全的な方法から、予防保全的な方法へ転換することで、社会教育施設の機能や設備を良好な状態に保ち、施設の長寿命化に努めることを目的とする。 2 現状・進捗 - 令和3年度3月策定の真室川教育施設長寿命化計画に基づき、令和12年度までの10年間で施設長寿命化を推進する。 - 対象施設：中央公民館、歴史民俗資料館、差首鍋地区生涯学習センター、小又地区交流センター、中ノ股地区交流センター - 令和6年度実績 中央公民館 4,620千円(基本構想策定、地域交流センター基本計画策定) 3 効果 - 長寿命化により使用年数の向上はもとより、ライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化が図られる。 - 建築年度が経過している施設が多いことに加え、資材や人件費の高騰により計画段階の概算事業費を大幅に上回る事業費が必要となっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 耐用年数向上に予防保全対応は重要である。中央公民館については、地域交流センターへの建替えとし、現状及び将来的なニーズに沿った施設計画を心掛ける。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A 意見等特になし。					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	生涯学習推進事業			所管係	生涯学習係																																
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																																				
施策名	23 ライフステージに応じた学びの機会の支援																																				
事業費	予算額	488千円	決算見込額	368千円																																	
1 目 的 児童から高齢者まで様々な世代がライフステージに応じた学習機会を得て、主体的に自らが学び充実した生活とともに、身近な課題の解決につながるような取り組みを推進することを目的とする。 2 現状・進捗 ・栄寿大学講座 44回 506人 ・まざれや体験塾 8回 119人 ・町づくり出前講座 33回 620人 ・高校生ボランティアホップステップ育成事業 所属13人 会議・社会参加活動 計18回 ・第45回みてみて私の作品展開催 10/5-10/14展示 応募数253点 ※古河市少年少女交流、スタディツアーは別掲 3 効 果 ・各世代に応じた取り組みを推進しており、コロナ禍以前の活動実績を上回ってきている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 世代ごとの交流、世代間の交流は地域づくりの基本であり、自主的に学ぶ機会の場の創出は地域課題解決のきっかけにもつながるものであるため、持続的な取り組みが必要である。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A 意見等特になし。						評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																	
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																	
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																		
		C	必要性や緊急性が低い																																		
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																	
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																		
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																		
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																	
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																		
		C	適切でない																																		

事務事業名	古河市少年少女交流事業		所管係	生涯学習係																												
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																															
施策名	23 ライフステージに応じた学びの機会の支援																															
事業費	予算額	716千円	決算見込額	540千円																												
1 目的 鮭延城（真室城）主、鮭延越前守秀綱公の墓所がある古河市と真室川町との少年少女の相互交流を通し、両市町の古き歴史を紐解き、相互間における絆と友情を深めるとともに、21世紀を担う健やかな少年少女の育成を図ることを目的とする。 2 現状・進捗 ・コロナウイルス感染症対策のため令和2年度から中止としていたが、令和5年度から再開している。 ・令和6年度は本町児童30名、古河市児童30名が参加し、歴史的なつながりとともに相互交流を図った。 3 効果 ・互いの町村にかかわる歴史的なつながりを通して、相互交流とともに児童の健全育成に資する事業となっている。 ・町内以外の児童と交流を持つ機会は限られていることから、参加児童にとっては貴重な機会となっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性 教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性 成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性 対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 募集定員に達し事業を催行できている。ただし、今後児童数減少を想定した交流の在り方を工夫する必要がある。また、物価上昇を加味し、参加費（3,000円）の見直し検討を要する。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A 物価上昇は計り知れないものがあり、参加費の値上げ検討は仕方ないと思う。					評価項目（評価の視点）	評価区分		判定	妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）	評価区分		判定																													
妥当性 教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																													
	B	緊急ではないが、教育ニーズがある																														
	C	必要性や緊急性が低い																														
有効性 成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																													
	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																														
	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																														
公平性 対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B																													
	B	対象や負担の見直しの余地がある																														
	C	適切でない																														

事務事業名	学校・家庭・地域等との連携協働推進事業			所管係	生涯学習係																																
基本方針	10 人と社会、学びをつなぐ環境をつくる																																				
施策名	24 学校・家庭・地域等との連携・協働																																				
事業費	予算額	9,653千円	決算見込額	9,647千円																																	
1 目 的 学校や家庭（保護者）、諸団体等により、地域ぐるみで児童の学びや成長を支援することで、学校を核に地域の活性化や持続可能な地域づくりをすることを目的とする。 2 現状・進捗 ・小中学校各校に地域学校協働コーディネーターを配置 各校1人 計4人 ・コーディネーターによる学習支援、図書支援、地域団体との連絡調整 ・地域住民等の参画による放課後等の体験活動（希少動物の観察会の開催） 3回 ・家庭教育支援としての保護者向け講演会（子育て講座など）の開催 3回 ・県学校家庭地域連携協働推進事業費補助金の活用（実績額2,999千円） 3 効 果 地域の方々から教育に関わっていただくことで、地域全体で児童の学びや育ちを支援することにつながるるとともに、コーディネーターを各校に配置し、きめ細やかな学びの支援にもつながっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 A （評価の理由） 少子化や学校統合が進み、地域との関わりを保ちつつ、地域ぐるみでの教育実現に欠くことができない事業である。コーディネーターについては、学校と地域との橋渡し役であることから、地域に精通した経験豊かな人材の確保について配慮していく必要がある。 外部評価 A （外部評価委員の意見等） ・地域と学校をつなぐ地域学校協働コーディネーターの業務は、年々重視されている。今後も適切な人材の配置や業務に専念できる環境の整備をお願いしたい。						評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																	
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																	
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																		
		C	必要性や緊急性が低い																																		
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																	
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																		
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																		
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																	
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																		
		C	適切でない																																		

事務事業名	まちなか図書館構想事業		所管係	生涯学習係																																
基本方針	11 感性豊かに生きる学びの場をつくる																																			
施策名	25 文化に親しみ、文化を愛する環境づくり																																			
事業費	予算額	763千円	決算見込額	569千円																																
1 目的 より多くの本に親しむ環境を提供し、知的好奇心の向上と本に親しむ文化の醸成を図るとともに、本を介した交流の場を創出し、豊かな生き方の追求につなげることを目的とする。 2 現状・進捗 ・〈中央公民館図書室〉 蔵書数：23,783冊（R5 22,618冊）、利用冊数7,868冊（R5 7,522冊） ・小さな本棚の設置：町内9箇所（駅、銀行、理容店ほか） ・ブックスタート6回（27組56人） ・ブックスタートプラス3回（28組58人） ・イベント回数 2回、参加者約218人（古本市、クリスマス会） ・図書館パートナーズ 14人 活動日数41回（延べ114人） 3 効果 ・令和6年7月豪雨の影響で複数イベントを中止したが、「小さな本棚」の設置や「古本市」の開催により、本を身近に感じてもらうことで、町民の知的好奇心の向上につながった。 ・乳幼児期からの取り組みとして、読育の重要性を理解して頂くための取り組み（ブックスタート、ブックスタートプラス）や読み聞かせイベントなどを実施し、家庭教育や乳幼児期の言葉力の向上につながっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 (評価の理由) A 限りある中央公民館のスペースを利用し、県立図書館との相互借入等を活用しながら町民が読みたい本の配置や、小さな本棚の配置を通じて、本に親しむ環境づくりに寄与している。 外部評価 (外部評価委員の意見等) A ・中央公民館入口の図書スペースは、とても整備されていて見やすい。					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	スタディツアー事業		所管係	生涯学習係
基本方針	11 感性豊かに生きる学びの場をつくる			
施策名	25 文化に親しみ、文化を愛する環境づくり			
事業費	予算額	168千円	決算見込額	82千円

1 目的
自然、歴史、文化など町にある資源を体系的に大人が学ぶことにより、郷土愛の醸成と町民が自発的かつ積極的に学ぼうとする心を育むことを目的とする。

2 現状・進捗
令和6年度までに計12回（2回/年、うち2回はオンライン）実施している。
＜令和6年度＞
・第11回 巡る水の旅（上下水道施設） 6/29 34人参加
・第12回 真室川の宝箱PART2新パワースポットへのいざない 10/21 40人参加
・第1回から10回までのレポートをまとめた「大人の社会科副読本」作成

3 効果
・普段は見られない資源を学ぶことで、郷土愛の醸成につながった。
・地域の大人が積極的に学ぶことは、地域教育力の向上につながる。

4 自己評価

評価項目（評価の視点）		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	B
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	

内部評価	（評価の理由） 地域資源を体系的に学ぶことは、参加者の自発的な学びにつながるものであり「町の宝」を再認識することにつながっている。一方で、参加者のリピート率が高いため、新たな参加者の獲得や交流人口の拡大という点について課題がある。
------	--

外部評価	（外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。
------	---------------------------

事務事業名	スポーツ部門本物教室事業		所管係	生涯学習係																																								
基本方針	12 誰もが楽しめるスポーツを推進する																																											
施策名	26 スポーツに親しみ、健康な体づくり																																											
事業費	予算額	30千円	決算見込額	30千円																																								
1 目的 県内には、サッカー、バスケット、バレーボールのプロスポーツチームがあり、一流のプロスポーツ選手のプレーに直接触れることで、児童生徒の感性を刺激し、スポーツに対しての意欲と意識の向上を図ることを目的とする。 2 現状・進捗 ・（サッカー）モンテディオ山形市町村応援デー 5/18 バスツアー参加者 3人 ・（バレーボール）アランマーレ山形・真室川小訪問（3-7本物教室本物体験推進事業再掲） 3 効果 ・プロスポーツ選手との交流やプレーに直接触れることで、児童生徒のスポーツに対する意欲の向上につながる。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由）</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>プロスポーツ選手との交流は、体験学習として児童生徒に好影響を与えている。サッカー市町村応援デーは、スポ少や部活動の繁忙期であるため日程調整に工夫を要するが、その他競技を含め、プロスポーツが身近にあるため、休日などを利用して自由な時間に観戦する児童生徒も増えていることから、観戦ツアーの対象や目的を見直す必要もある。</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>外部評価</td> <td>（外部評価委員の意見等）</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> ・バスツアーの参加者人数から、周知にも力を入れる必要があると感じる。 ・本物に触れる機会があり、ありがたい。今後の観戦ツアーに期待する。 </td> </tr> </table>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由）	B	プロスポーツ選手との交流は、体験学習として児童生徒に好影響を与えている。サッカー市町村応援デーは、スポ少や部活動の繁忙期であるため日程調整に工夫を要するが、その他競技を含め、プロスポーツが身近にあるため、休日などを利用して自由な時間に観戦する児童生徒も増えていることから、観戦ツアーの対象や目的を見直す必要もある。	外部評価	（外部評価委員の意見等）	B	・バスツアーの参加者人数から、周知にも力を入れる必要があると感じる。 ・本物に触れる機会があり、ありがたい。今後の観戦ツアーに期待する。
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																								
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																								
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																									
		C	必要性や緊急性が低い																																									
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B																																								
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																									
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																									
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																								
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																									
		C	適切でない																																									
内部評価	（評価の理由）																																											
B	プロスポーツ選手との交流は、体験学習として児童生徒に好影響を与えている。サッカー市町村応援デーは、スポ少や部活動の繁忙期であるため日程調整に工夫を要するが、その他競技を含め、プロスポーツが身近にあるため、休日などを利用して自由な時間に観戦する児童生徒も増えていることから、観戦ツアーの対象や目的を見直す必要もある。																																											
外部評価	（外部評価委員の意見等）																																											
B	・バスツアーの参加者人数から、周知にも力を入れる必要があると感じる。 ・本物に触れる機会があり、ありがたい。今後の観戦ツアーに期待する。																																											

事務事業名	社会体育施設長寿命化事業		所管係	生涯学習係																																
基本方針	12 誰もが楽しめるスポーツを推進する																																			
施策名	26 スポーツに親しみ、健康な体づくり																																			
事業費	予算額	15,811千円	決算見込額	12,783千円																																
1 目的 これまでの対処保全的な方法から、予防保全的な方法へ転換することで、社会教育施設の機能や設備を良好な状態に保ち、施設の長寿命化に努めることを目的とする。 2 現状・進捗 - 令和3年度3月策定の真室川教育施設長寿命化計画に基づき、令和12年度までの10年間で施設長寿命化を推進する。 - 対象施設：町民体育館、町民武道館、運動公園機械格納庫、運動公園トイレ、スキーハウス、クロスカントリーハウス ※テニスコート、野球場、多目的広場、グラウンドゴルフ場は都市公園の計画に含まれる。 - 令和6年度実績 町民体育館 6,776千円(屋根外壁更新設計委託1件) 総合運動公園 6,007千円(浄化槽更新1件、ポンプ更新1件) 3 効果 - 長寿命化により使用年数の向上はもとより、ライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化が図られる。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 A （評価の理由） 耐用年数向上に予防保全対応は重要であり、今後も施設を適正に保つためには計画的な改修は欠くことができない。課題として、資材や人件費の高騰により計画段階の概算事業費を大幅に上回る事業費が必要となっている。 外部評価 A （外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	A																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	生涯スポーツ振興事業		所管係	生涯学習係
基本方針	12 誰もが楽しめるスポーツを推進する			
施策名	26 スポーツに親しみ、健康な体づくり			
事業費	予算額	7,215千円	決算見込額	5,533千円
1 目的 児童から高齢者まで気軽にスポーツ・レクリエーションに親しめる環境づくりとともに、各競技団体やスポーツ少年団と連携し、選手や指導者の育成支援を図ることを目的とする。				
2 現状・進捗 ・スポーツ推進委員委嘱 10人 ・スポーツ協会表彰者数 43人 (R5 67人) ・スポーツ少年団育成 登録数6単位団 団員116人 指導者22人 ・町スポーツ協会育成 15団体 603人 ・小学生対象陸上教室 計 5回開催 延べ参加者数 103名 ・町民総合体育大会 9競技 計422名参加 ・第84回秋山スキー大会 2/9 出場174人				
3 効果 ・野球、サッカー、ソフトテニス、バドミントン、ドッジボール、スキー、柔道と多くの競技で県大会以上での入賞者数が多数出ている。				
4 自己評価				
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある	
		C	必要性や緊急性が低い	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	B
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A
		B	対象や負担の見直しの余地がある	
		C	適切でない	
内部評価	（評価の理由） 競技力向上のほか、多くの年代がスポーツに親しむことは、健康増進の一助につながることから、65歳以上及び小中学生の施設利用使用料を減免し、底辺の拡大に努めている。			
外部評価	（外部評価委員の意見等） ・指導者等の確保や資質の維持向上が望まれる。			

事務事業名	ふるさと文化推進事業		所管係	生涯学習係																																
基本方針	13 ふるさとをおもう心を耕す場をつくる																																			
施策名	28 郷土愛の醸成																																			
事業費	予算額	2,027千円	決算見込額	1,718千円																																
1 目的 伝統ある歴史や文化に触れる機会を創出し、「学びの資源」として活用することで町を大切にしたいと思える心を育むことを目的とする。 2 現状・進捗 <事業実施状況> ・ 甕山番楽奉納祭 6/1 ・ 第40回山形県児童生徒版画作品展 10/5～10/14中央公民館展示 548点出展 ・ 第32回番楽フェスティバル 10/20 町内3団体、町外2団体 ・ 第22回ふるさと子ども伝承祭 11/24 10団体出演 ・ 地元学・伝承文化アドバイザーの派遣 1回 (8/31 釜淵篝火番楽) 3 効果 ・ 作品展や事業を実施することにより、歴史や文化に触れる機会を創出するとともに、伝承文化の継承や関係団体の技術の向上などにつながっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> 内部評価 A （評価の理由） 地域における伝承文化の継承や、文化に触れることによる郷土愛の醸成につながっている。 外部評価 A （外部評価委員の意見等） ・ 意見等特になし。					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																	
		C	必要性や緊急性が低い																																	
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																	
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																	
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																	
		C	適切でない																																	

事務事業名	文化財保護事業		所管係	生涯学習係																																										
基本方針	13 ふるさとおもいう心を耕す場をつくる																																													
施策名	28 郷土愛の醸成																																													
事業費	予算額	1,712千円	決算見込額	1,469千円																																										
1 目的 文化財保護法及び山形県文化財保護条例の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で町の区域内に存するもののうち、町にとって重要なものについてその保存及び活用に必要な措置を講じ、町民の文化的向上に資するとともに、わが国文化の進歩に貢献することを目的とする。 2 現状・進捗 ・文化財保護委員会の設置（委員5名） ・町内文化財の巡回（適切な保存がなされているかを確認） ・文化財の維持管理について地域に委託（鮭延城址、中村湿原、滝ノ沢の一本杉、及位台場跡地） ・内町銅造如来倚像管理補助金の支出 ・＜指定状況＞国指定重要文化財2件、県指定有形文化財1件、県指定記念物1件、町指定有形文化財6件、町指定民俗文化財3件、町指定記念物3件 3 効果 ・文化財は所有者の権限によるものであるため、指定を行い管理委託、補助金、巡回指導を適宜行うことで適正管理を促す。 ・スタディツアーやまざれや体験塾、小学校の出前講座などで文化財を紹介し、身近に感じてもらうことにより、町の歴史を知る機会を提供し、郷土愛の醸成にもつながっている。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> <tr> <td colspan="2">内部評価</td> <td colspan="3"> （評価の理由） 法律および県並びに町の条例に基づき、適正な維持管理につながるものであり、町民の文化的向上に資するものである。 A </td> </tr> <tr> <td colspan="2">外部評価</td> <td colspan="3"> （外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。 A </td> </tr> </tbody> </table>					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価		（評価の理由） 法律および県並びに町の条例に基づき、適正な維持管理につながるものであり、町民の文化的向上に資するものである。 A			外部評価		（外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。 A		
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																										
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																										
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																											
		C	必要性や緊急性が低い																																											
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																										
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																											
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																											
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																										
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																											
		C	適切でない																																											
内部評価		（評価の理由） 法律および県並びに町の条例に基づき、適正な維持管理につながるものであり、町民の文化的向上に資するものである。 A																																												
外部評価		（外部評価委員の意見等） ・意見等特になし。 A																																												

事務事業名	歴史民俗資料館運営事業		所管係	生涯学習係																																				
基本方針	13 ふるさとおもう心を耕す場をつくる																																							
施策名	28 郷土愛の醸成																																							
事業費	予算額	11,235千円	決算見込額	10,428千円																																				
1 目 的 町民の文化的向上と、地方文化の振興に寄与するとともに文化財保護思想の高揚を図るために歴史民俗資料館を設置する。 2 現状・進捗 - 令和5年度より、課長兼務であった館長を配置し、3名体制で企画運営を行っている。 ＜企画展＞4回 5/8-6/9佐藤正彌展 7/17-9/1真室川の自然のきらめき 冬虫夏草展 11/12-12/11 松澤純一写真展 2/22-4/6 真室川雛人形展 - 入館者数：R4 982人 R5 2,930人 R6 1,753人（前年度比△1,177人 △40.2%） 3 効 果 - 新しい館長を迎え、県立博物館と連携や、町歴史研究会の協力を得て企画展を開催したことにより、大幅な来館者数の増につながった。 4 自己評価 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">評価項目（評価の視点）</th> <th colspan="2">評価区分</th> <th>判定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">妥当性</td> <td rowspan="3">教育ニーズや緊急性があるか</td> <td>A</td> <td>教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である</td> <td rowspan="3">B</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>緊急ではないが、教育ニーズがある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>必要性や緊急性が低い</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">有効性</td> <td rowspan="3">成果が得られているか（目的達成度）</td> <td>A</td> <td>目標を達成している</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">公平性</td> <td rowspan="3">対象や受益者負担の設定は適切か</td> <td>A</td> <td>適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）</td> <td rowspan="3">A</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>対象や負担の見直しの余地がある</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>適切でない</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>内部評価</td> <td>（評価の理由）</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>年間来館者数は前年度比40.2%減であったが、令和6年7月豪雨以後の来町者減、全館燻蒸による開館日減によるものであり、一昨年度比では78.5%増であった。今後も県立博物館等との連携を深め、趣向を凝らした真室川町らしい企画展を展開する。</td> </tr> </table> 外部評価 （外部評価委員の意見等） - 意見等特になし。 A					評価項目（評価の視点）		評価区分		判定	妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B	B	緊急ではないが、教育ニーズがある	C	必要性や緊急性が低い	有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A	B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能	C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難	公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A	B	対象や負担の見直しの余地がある	C	適切でない	内部評価	（評価の理由）	A	年間来館者数は前年度比40.2%減であったが、令和6年7月豪雨以後の来町者減、全館燻蒸による開館日減によるものであり、一昨年度比では78.5%増であった。今後も県立博物館等との連携を深め、趣向を凝らした真室川町らしい企画展を展開する。
評価項目（評価の視点）		評価区分		判定																																				
妥当性	教育ニーズや緊急性があるか	A	教育ニーズがあり、生活に関わる緊急の事業である	B																																				
		B	緊急ではないが、教育ニーズがある																																					
		C	必要性や緊急性が低い																																					
有効性	成果が得られているか（目的達成度）	A	目標を達成している	A																																				
		B	目標を若干下回っているが、最終目標は達成可能																																					
		C	かなり目標を下回っており、最終目標は達成も困難																																					
公平性	対象や受益者負担の設定は適切か	A	適切である（対象変更や負担の見直しは不可能）	A																																				
		B	対象や負担の見直しの余地がある																																					
		C	適切でない																																					
内部評価	（評価の理由）																																							
A	年間来館者数は前年度比40.2%減であったが、令和6年7月豪雨以後の来町者減、全館燻蒸による開館日減によるものであり、一昨年度比では78.5%増であった。今後も県立博物館等との連携を深め、趣向を凝らした真室川町らしい企画展を展開する。																																							

教育委員会の活動報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

1 教育委員会組織

○委員の就任状況

令和6年4月1日現在

役 職	氏 名	就任年月日	摘 要
教 育 長	門脇 昭	H30. 4. 1	3 期目
委 員	遠田 且子	H22. 12. 16	4 期目
委 員	山田 敏一	H28. 10. 1	2 期目
委 員	鮭延 三枝子	H29. 12. 25	2 期目
委 員	中塚 聖子	R1. 10. 1	2 期目

※令和6年9月30日をもって山田敏一委員が退任。令和6年10月1日から高橋亜理紗委員が就任。

2 町総合教育会議の開催

○第1回総合教育会議

開催日 令和6年10月30日

議 題 (1)就学時支援のあり方について

①第3期子ども子育て支援事業計画策定に係るニーズ調査から

3 教育委員会の会議等の開催状況

教育委員会の会議は、原則として毎月1回（定例会・臨時会・協議会等）開催しています。この会議では教育行政の基本方針の決定、教育に関する規則の制定などについて審議します。

区 分	開催日	主な協議事項
協議会	R6. 4. 26	・町教育振興計画の推進について
定例会	R6. 5. 28	・学校医等の委嘱について ・真室川町教育支援委員会委員の委嘱について ・真室川町特別支援教育推進委員会委員の委嘱について ・真室川町学校教育指導委員会委員の委嘱について ・真室川町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について ・真室川町学校運営協議会委員の任命について ・真室川町外国語教育推進委員会委員の委嘱について ・真室川町学校保健委員会委員の委嘱について ・真室川町教職員安全衛生委員会委員の委嘱について ・真室川町学校給食運営委員会委員の委嘱について ・真室川町学校給食献立作成委員会委員の委嘱について ・真室川町行事調整委員会委員の委嘱について ・真室川町文化行事企画委員会委員の委嘱について ・真室川町社会科副読本編集委員会委員の委嘱について

		・真室川町公民館運営審議会委員及び真室川町社会教育委員の委嘱について ・真室川町文化財保護委員会委員及び真室川町立歴史民俗資料館運営委員会委員の委嘱について ・真室川町スポーツ推進委員の委嘱について ・真室川町教育委員会会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する規則及び真室川町教育委員会会計年度任用職員の勤務時間及び休暇等に関する規則を廃止する規則の制定について ・真室川町立真室川中学校部活動指導員の任用等に関する規則の一部を改正する規則の制定について ・令和 6 年度教育予算補正案の原案について
協議会	R6. 6. 20	・重点施策の進捗状況等について
定例会	R6. 7. 29	・臨時代理の報告について（令和 6 年度真室川あさひ小学校給排水管及び浄化槽更新工事請負契約の締結について） ・真室川町いじめ問題対策専門委員会委員の委嘱について ・令和 7 年度使用真室川町立小・中学校用教科用図書の採択について ・第 2 次真室川町子ども読書推進計画の策定について
定例会	R6. 8. 27	・教育委員会事務・事業点検評価の報告について ・真室川町における部活動改革の方針の策定について ・令和 6 年度教育予算補正案の原案について
協議会	R6. 9. 27	・重点施策の推進状況等について
協議会	R6. 10. 30	・教育委員学校訪問について ・重点施策の進捗状況等について
定例会	R6. 11. 26	・令和 6 年度教育予算補正案の原案について
定例会	R6. 12. 26	・令和 7 年度教育予算案の原案について
協議会	R7. 1. 28	・重点施策の実施状況等について
定例会	R7. 2. 27	・町議会の議決を要する事件について（令和 6 年度真室川あさひ小学校給排水管及び浄化槽更新工事請負変更契約の締結について） ・令和 6 年度教育予算補正案の原案について
臨時会	R7. 3. 6	・教職員人事異動について
定例会	R6. 3. 27	・真室川町教育委員会外国語指導助手任用規則の一部を改正する規則の制定について ・令和 7 年度人事の審議について

4 その他の活動

(1) 会議・研修等への出席

- 教育職員全体研修会
- 町議会との教育懇話会
- 最上地区市町村教育委員会協議会研修総会
- 最上地区市町村教育委員会協議会研修会

- 山形県町村教育長会定期総会
- 山形県市町村教育委員会大会
- 山形県市町村教育委員会教育長会議
- 山形県市町村教育委員会協議会総会
- 東北町村教育長連絡協議会定期総会
- 東北六県市町村教育委員会研修会

(2) 学校等行事への出席

- 小中学校入学式、保育所入所式、こども園入園式
- 小中学校運動会、保育所運動会
- 小体連陸上大会
- 小中学校卒業式、保育所修了式、こども園卒園式

(3) 学校等訪問

- 小中学校・保育所・こども園訪問

